

令和5年度 事業報告

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

(はじめに)

大阪対がん協会は、平成25年8月1日付で旧財団法人から公益財団法人に移行した。

今回の事業報告は、公益財団法人に移行して11期目であり、報告期間は、令和5年4月1日から令和6年3月31日までである。

《公益目的事業》

(公益目的事業1(公1))普及・啓発活動:啓発イベント開催・情報発信・がん検診の奨励

【がんに関する啓発イベント】

○主催行事

① 大阪対がん協会セミナー

「AYA世代のがんについて一緒に考えよう-映画上映会&プレミアムトーク-」

開催日:2023年10月7日(土)

主催者:公益財団法人 大阪対がん協会、大阪国際がんセンター

後援者:厚生労働省、大阪府、大阪市、一般社団法人 AYA がんの医療と支援のあり方研究会、
特定非営利活動法人つながりひろば、一般社団法人がんライフアドバイザー協会

② 成人病公開講座

大阪国際がんセンター、大阪成人病予防協会とともに4回開催した。いずれも講演を録画し、後日映像を公開した。各回とも大阪国際がんセンターの医師を中心とした講師が、図や表などをまじえて、分かりやすく説明している。各回のテーマと講師は、次のとおりである。

回数	公開期間	テーマ	講師
99回	6月26日～ 9月29日	脳腫瘍と脳卒中 ・原発性脳腫瘍に対する治療の取り組み ・がんセンターにおける転移性脳腫瘍の治療 ・がんと脳卒中	大阪国際がんセンター 脳神経外科 部長 有田英之 脳循環内科 主任部長 大江洋史
100回	9月22日～ 1月31日	血液がん治療の最近の進歩 ・多発性骨髄腫の治療 ・HTLV-1感染と成人T細胞白血病リンパ腫の診療 ・造血幹細胞移植と細胞療法の進歩	大阪国際がんセンター 血液内科 医長 新開 泰宏 血液内科 副部長 藤 重夫 血液内科 主任部長 横田 貴史

101回	11月10日～ 3月7日	最先端のがんロボット手術 (がんロボット手術センター新設) ・ロボット手術時代到来！ 最新の胃がん低侵襲ロボット手術 ・ロボット支援胸腔鏡下肺切除 ・大腸がんロボット手術の現在、そして未来へ	【大阪国際がんセンター】 消化器外科 主任部長・胃外科長・胃がんセンター長・がんロボット手術センター長 大森 健 呼吸器外科 副部長 馬庭 知弘 消化器外科 副部長・大腸外科長 安井 昌義
102回	3月7日～ 6月22日	健康講話 健康に関する最新のトピック ・がんと高血圧の新しい関係:Onco-Hypertension ・全身MRI -最新の情報公開- ・動脈硬化は冰山と同じ形をしている。 ～そのリスクと予防について～ ・特別講演「健康長寿と統合医療 ～ヒトの直立二足歩行の光と影」	【大阪国際がんセンター】 成人病ドック科 主任部長 向井 幹夫 放射線診断科 主任部長 中西 克之 【社会医療法人協和会加納総合病院】 部長 西川 永洋 【公益財団法人大阪府保健医療財団】 理事長・【大阪がん循環器病予防センター】 所長 伊藤 壽記

③ がん予防キャンペーン大阪

「がん予防キャンペーン大阪」実行委員会が主催するシンポジウムは、大阪府のがん死亡率とがん検診率を改善することを目的として実施されている。

毎年、当協会は実行委員会を構成する主催11団体の一つとして参加しており、構成団体は、他に大阪府、大阪市、大阪府医師会などで、実行委員会事務局は大阪府保健医療財団が担当している。

がん予防キャンペーン大阪 2023

「子宮頸がん検診とHPVワクチン -未来のために大切なこと-」

公開期間：2023年10月1日（日）～2024年3月31日（日）

主催者：大阪府、大阪市、一般社団法人 大阪府医師会、一般財団法人 大阪府結核予防会、大阪府地域婦人団体協議会、大阪市地域女性団体協議会、公益財団法人 大阪成人病予防協会、公益財団法人 大阪府保健医療財団、公益財団法人 大阪対がん協会

④ オンコロモーション認定指導員の認定事業

2023年11月に、がんに関する高度な専門知識と職業倫理を有し、がん患者さんとそのご家族に寄り添うことのできる運動指導員育成のため、がんサバイバーシップの強化に繋げ、「がん」と診断されてからの生き抜くプロセスを手助けするとともに、がん医療の発展への寄与となることを目指して、「オンコロモーション認定指導員」の資格認定事業を大阪府知事の承認を受けて第1回目の認定試験を実施し、受験者9名、合格者9名の「オンコロモーション認定指導員」の有資格者が誕生した。

⑤ がん患者支援活動

がん患者さんやその家族は、様々な悩みや不安を抱えている。それらを少しでも解消するために元医療従事者(看護師等)が相談等に対応することが非常に重要な状況となっている。

そこでがん患者支援として、がん患者さんやその家族からの各種相談に対応するため、非常勤の相談員(元看護師)を雇用するとともに、「NPO法人 つながりひろば」の協力を得ながら、病気のこと、診療・治療のこと、日常生活のこと、家族との接し方、医療者への不満などの相談に対応した。

⑥ 患者会等への支援活動

患者会等からの依頼に基づき、イベントのPRなど、告知面で協力した。

○共催・後援行事

特定非営利活動法人、学会、医療機関などが主催するイベントに対して、「共催」や「後援」による支援をしており、今年度は以下のイベントに対して実施した。

【共催】

① つながりひろば講演会

「緩和ケア医が、がんになって」

開催日：2023年10月20日(金)

共催者：特定非営利活動法人 つながりひろば、公益財団法人 大阪対がん協会

後援者：大阪国際がんセンター、公益財団法人 大阪成人病予防協会、大阪府

【後援】

① 2023年度 頭頸部外科月間キャンペーン

ー市民公開講座ー「口腔がんをもっと知ろう」

開催日：2023年7月2日(日)

ー口腔がん無料検診ー

検診日：2023年7月3日(月)～31日(月)

主催者：一般社団法人日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会大阪府地方部会
一般社団法人大阪府耳鼻咽喉科医会

後援者：大阪府、大阪市、大阪府医師会、公益財団法人 大阪成人病予防協会、
公益財団法人 大阪対がん協会

② 第16回「ピンクリボン大阪2023 女性がんの検診啓発 ～ピンクリボンまつり in 大阪～」

開催日：2023年10月15日(日)

主催者：特定非営利活動法人 ピンクリボン大阪

後援者：厚生労働省、大阪府、大阪府医師会、大阪府女医会、公益財団法人 大阪対がん協会 ほか

③ がん教育の普及・促進プロジェクト

「がんサバイバーメッセージ動画の製作」

「がん出張授業の実施」

・共催：朝日新聞社メディアビジネス局、小野薬品工業株式会社

・後援：文部科学省、大阪府、大阪府教育庁、日本医師会、大阪対がん協会
日本癌学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会

・概要：2023年12月～2024年2月

大阪府内の高等学校3校（天王寺・夕陽丘・大阪青陵高等学校）において、動画の視聴、松浦成昭総長（会長）による講義、質疑応答を行った。

※がんサイバー動画については、YouTube 及びホームページで閲覧できるようにしている。（2023年11月14日掲載）

【がんに関する情報発信】

① オリジナル小冊子などの配布

協会発行のがん啓発小冊子「進め！がん防衛隊 2nd Edition」を、多くの方のがんを知るきっかけとしてもらうために、主催行事などでの配布や希望者への送付を続けている。なお、医療機関などから、部数を多く希望された場合は、1部100円で販売をしている。令和6年度に「がん防衛隊 3rd Edition」を発行する予定である。

また、別のがん検診を勧める啓発チラシを2種類作成し、会員等に配付した。

② 協会ホームページ

インターネットによる情報収集の広がりに対応するため、平成22年5月に協会ホームページを開設し13年目を迎えた。

内容の充実を図るとともに内容を更新し、最新の情報提供に努めた。

協会が主催・共催・後援するイベントの告知、がん研究助成奨励金事業の詳細を掲載するほか、決算書などの情報公開資料も開示している。

③ 事業概要・協会報

8月に「令和4年度事業概要」を発行した。令和4年度の事業内容や寄付者名簿のほか、がん研究助成奨励金受賞者も併せて掲載した。協会報は6月、12月に発行した。

【日本対がん協会関連事業】

「日本対がん協会大阪府支部」として、がん征圧事業で連携、協力を進めた。

① がん征圧月間

9月を「がん征圧月間」として日本対がん協会が展開する各種事業に参加・協力した。主な行事として実施されている「がん征圧全国大会」（9月7日（木）～8日（金））に参加した。

また、共通デザインの「がん検診の推進」と「禁煙」の2種類のポスターを各100枚作成し、大阪府医師会、大阪府看護協会など関係各団体へ送るなど、征圧月間の目的であるがんの予防知識や早期発見・早期治療の重要性を広く伝えるための啓発活動を行った。

② 近畿ブロック会議

日本対がん協会と近畿2府4県の支部が、がん征圧事業の報告や意見交換をする近畿ブロック会議は10月25日（水）に開催された。事前に各支部から出された質問に他の支部が答える形式で、検診に関する動向や各支部運営の管理面について有益な情報を交換する話し合いが持たれた。

③ 子宮頸がん・乳がん・肺がん・大腸がん・胃がん検診無料クーポン券の活用

日本対がん協会が発行しているがん検診無料クーポン券（計70枚）を活用し、がん検診の受診率向上に取り組んでいる。令和5年度からは、URL 又は QR コードで予約申込をするように変更されている。6月発行の協会報に掲載し、会員等に配付することにより、受診率向上に努めた。

(公益目的事業 2 (公2))

がん研究助成奨励金:がんの研究、治療に当たる医師、看護師らへの助成

【がん研究助成奨励金】

新進の研究者・医療従事者(基礎・臨床・疫学は40歳未満、看護等は45歳未満)を支援する「がん研究助成奨励金」事業は協会の目玉事業である。

同事業は協会設立翌年の昭和35年度から始め、今回で 64 回目である。2023 年度は「基礎」「臨床」「疫学」「看護等」の4部門で計15人の贈呈者を選び、各30万円を贈呈した。

今年度は、計 31 名から研究計画の応募があり、外部の専門家など13人の選考委員が採点した結果をもとに令和 6 年 2 月 20 日(火)に開かれた選考委員会(委員長＝松浦成昭・協会長)で贈呈者を決定した。受賞者は、今回で延べ 1790 人、奨励金の総額は4億 2910 万円となった。

なお、今年度は、令和 6 年 3 月 13 日(水)に贈呈式及び祝賀会を開催した。

《会員向け事業》

主に賛助会員向けの特典等として実施してきた事業については、公益財団法人に移行後は「その他の事業」として区分され、令和 5 年度も以下のような会員向け事業を継続実施した。

(その他の事業 1 (他1) 賛助会員サービス:定期的な情報の提供、がん検診の奨励)

【情報の提供】

① 協会報

協会報は、6月・12月の2回発行した。各1000部印刷し、内容は以下のとおりである。

発行月	主 な 内 容
6月号	2022 年度がん研究助成奨励金・受賞者紹介、がん医療 展望 vol.17 「第4期がん対策推進基本計画」、会員のみなさまへのお願い、令和 5 年度がん検診無料クーポン券のプレゼントキャンペーン
12月号	2023年度がん研究助成奨励金の募集内容、秋の啓発イベント報告(成人病公開講座、がん予防キャンペーン大阪)、がん医療 展望 vol.18 「がんの予防」、来春のがん検診案内

② 事業概要

「令和 4 年度版事業概要」を8月に発行した。1000部印刷し、会員のほか、関係機関、希望者に郵送した。A4判で本文40ページ。従来どおり事業報告、決算報告、寄付者名簿などを掲載、がん研究助成奨励金の 2022 年度受賞者 15 人の研究内容を7ページにわたって紹介している。普及啓発活動の紹介の項目では、協会の主催・共催・後援イベントを掲載した。

【がん検診の奨励】

春・秋のがん検診の奨励

- ① 大阪府医師会保健医療センターによる秋のがん検診(申込期間:2023年9月1日(金)～10月31日(火) 検診期間:2023年10月2日(月)～11月30日(木))を受診奨励のため、会員に対し、「大阪対がん協会 秋のがん検診」とするチラシの配付を行った。

- ② 大阪がん循環器病予防センターによる春のがん検診（申込期間：2024年2月5日（月）～3月8日（金） 検診期間：2024年4月1日（月）～5月31日（金））を受診奨励のため、協会報12月号に掲載し、会員に配付した。
- ③ 日本対がん協会から提供のあった子宮頸がん・乳がん・肺がん・大腸がん・胃がん検診の無料クーポン券のプレゼントキャンペーン（予約期間：2023年7月1日（土）～9月30日（土） 検診期限：2023年10月31日まで）を、協会報2023年6月号において、会員に対し周知するとともに、協会報をホームページにも掲載した。

《協会の運営》

【運営面の状況】

① 遺贈について

令和3年度の約3333万円の遺贈の受入れに続き、令和4年度は、約2億1500万円の遺贈を受け入れることが決定し、最終的には、令和5年9月に受入した。

更に現在、遺贈の手続きをしているものが2件あり、ともに公正証書が作成されている。

【決算及び寄付の状況】

① 令和5年度末の正味財産について

令和5年度末の正味財産残高は、2億5634万円で、前年と比較して、2億293万円増加した。これは、遺贈による使途特定の寄付金2億1533万円が増えたことによるものである。

当期経常増減額については、経常収益計が2553万円、経常費用計が2699万円で△146万円となっている。

費用面の主な増額要因は、役員報酬、給与手当、セミナー講師謝金、がん研究助成奨励金の贈呈式・祝賀会費用及びオンコロモーション認定指導員に係る委託費等によるものである。

過去3年間の正味財産の増減は、令和3年度(3029万円増加)、令和4年度(344万円減少)、令和5年度(2億293万円増加)という結果となっている。

② 受取寄付金とその内訳について

令和5年度の受取寄付金(会費及び一般寄付金)は、1445万円であるが、指定正味財産より1093万円を取り崩したため、合計2538万円となった。その結果、前年度に比べて882万円増加した。過去3年間の受取寄付金は、令和3年度1396万円、令和4年度1655万円、令和5年度2538万円である。

受取寄付金の内訳は、正会員からの会費収入は400万円、会員は4法人であるが、会員数は、令和2年度から増えていない状況である。賛助会員からの会費収入は207万円、会員数は287件。正会員と賛助会員からの会費収入の合計は607万円、会員数の合計は291件である。前年度に比べ、金額で11万円の減少、件数では、19件の減少となった。高齢などの理由で賛助会員の退会が多くなり、減少が続いている。

会費以外の寄付金は、39件で710万円、前年度に比べ、件数で3件減少しているが金額では、12万円増加している。

会費以外の寄付金の増減は、やむを得ないかもしれないが、賛助会員の会費収入は、年々減少傾向にあり、今後の事業の継続のためには、賛助会員の増員等、受取寄付金の収入増の対策が求められる。

③ 募金型自動販売機について

飲料メーカーと連携し、「がん征圧支援」を掲げる自動販売機の設置に取り組み、協会の収入増と知名度アップを目指している。現在、募金型自販機は9ヶ所で、令和5年度の年間収入額は、128万円（前年度は、146万円）で少し減っているが安定した財源になっている。